

平成30年度羽曳野市事務事業評価シート(平成29年度実施事業)

				コード	154-01-02		
事務事業名		汚水整備事業		事務の種類		自治事務（義務的なもの）	
				連絡先		内線2320	
担当部署名		下水道部 下水道建設課		予算科目	会計	5	公共下水道特別会計
総合基本計画	施策目標	1	快適でうるおいのある住みよいまち		款	1	下水道費
	施策	5	上下水道		項	2	下水道事業費
	施策の方向	4	下水道事業の推進		目	1	下水道事業費
対象（誰を・何を）		市民全体					
目的（どうしたいか）		市民が衛生的で快適な生活が営めるように生活環境の改善と水質改善を図る。					
手段（事業内容）		生活排水を水路や側溝に流さず、汚水管によって処理場へ運び処理した水を河川へ放流し、生活環境の改善と水質改善を図る事業。測量、設計、家屋調査、水道管・ガス管等の移設及び工事を行う。					

事業費

単位：千円	28年度決算	29年度決算	30年度当初予算
事業費	1,288,056	620,585	845,754
人件費	74,754	68,231	69,002
総事業費	1,362,810	688,816	914,756
うち市負担分	481,960	40,076	102,971

29年度決算主な内訳
【事業費】 下水道事業：616,957千円 大和川下流域下水道事業費：3,628千円 【特定財源】 社会資本整備交付金：218,000千円 受益者負担金：31,440千円 市債：399,300千円

活動指標

指標名	工事延長	単位	m
指標の説明	1年間で敷設した新設汚水管渠の延長		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	3,615	2,138	2,434

成果指標

指標名	汚水整備率	単位	%
指標の説明	区域内人口(人)/総人口(人)		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	83.7	84.6	85.3

参考数値
H29年度末総人口 112,452人 H29年度末区域内人口 95,094人 H30年度末区域内人口（目標） 95,914人

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事业である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合について検討の余地がある。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価

☐ 拡充・重点化	☒ 現状維持	☐ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☐ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容					
妥当性、効率性、有効性から判断し、公共下水道事業が重要で市民からも要望されており、整備促進していく必要がある。しかし、限られた予算と人員の中で、公共下水道事業として雨水整備、汚水整備ともに必要となってくる。そのため、それぞれの課題について、調査検討を実施し、公共下水道事業全体として、計画的、効率的な事業を行えるよう、中長期の方針を立てることが急務である。					

平成30年度羽曳野市事務事業評価シート(平成29年度実施事業)

				コード	154-02-01		
事務事業名		雨水整備事業		事務の種類		自治事務（義務的なもの）	
				連絡先		内線2320	
担当部署名		下水道部 下水道建設課		予算科目	会計	5	公共下水道特別会計
総合基本計画	施策目標	1	快適でうるおいのある住みよいまち		款	1	下水道費
	施策	5	上下水道		項	2	下水道事業費
	施策の方向	4	下水道事業の推進		目	1	下水道事業費
対象（誰を・何を）		市民全体					
目的（どうしたいか）		雨水による浸水等で、市民の生命・財産に危険が及ばないようにし、快適な生活を送れるまちとする。					
手段（事業内容）		雨水管渠等により、公共用水域に雨水を排水し、市民が住みよいまちづくりを行う事業。測量、設計、家屋調査、水道管・ガス管等の移設及び工事を行う。					

事業費

単位：千円	28年度決算	29年度決算	30年度当初予算
事業費	73,898	101,488	141,674
人件費	19,176	19,842	20,180
総事業費	93,074	121,330	161,854
うち市負担分	57,174	88,730	83,654

29年度決算主な内訳
【事業費】 下水道事業費：88,245千円 河川総務費：1,569千円 排水路費：11,674千円
【特定財源】 市債：32,600千円

活動指標

指標名	工事延長	単位	m
指標の説明	1年間で整備した新設雨水施設の延長		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	255	176	289

参考数値
H28年度末管渠延長：30,123m H29年度末管渠延長：31,188m ＝30,123m+市工事176m+ 民間工事889m H30年度末管渠延長（目標） ：31,477m＝31,188m+ 市工事289m

成果指標

指標名	雨水管渠延長	単位	m
指標の説明	市が管理する雨水管渠総延長		
指標データ	28年度実績	29年度実績	30年度目標(見込)
	30,123	31,188	31,477

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事业である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価

☐ 拡充・重点化	☒ 現状維持	☐ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☐ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容					
妥当性、効率性、有効性から判断し、公共下水道事業が重要で市民からも要望されており、整備促進していく必要がある。しかし、限られた予算と人員の中で、公共下水道事業として雨水整備、汚水整備が必要となってくる。そのため、それぞれの課題について、調査検討を実施し、公共下水道事業全体として、計画的、効率的な事業を行えるよう、中長期の方針を立てることが急務である。					